

指導資料

 鹿児島県総合教育センター

複式教育 第54号

- 小学校対象 -

平成15年9月発行

へき地・小規模校のよさを生かした総合的な学習の時間の進め方

本県の小学校の約50%が離島・へき地にあり、その70%近くの小学校が複式学級を有する小規模校である。また、本県全体では、約40%の小学校に複式学級が設置されている。このような現状を踏まえ、「新かごしま教育推進プラン」では、へき地・小規模校教育の充実が求められており、へき地・小規模校の複式学級における学習指導の充実が、本県教育の重要な課題となっている。

また、昨年度から全面実施となった総合的な学習の時間においては、子どもや家庭、学校、地域のそれぞれの実態を踏まえた特色ある学習活動を展開することが大切である。本県は、豊かな自然環境に恵まれ、多くの伝統的行事等が継承されている。特に、へき地・小規模校においては、そのよさを十分に生かした学習活動が期待できる。

そこで、本稿ではへき地・小規模校における総合的な学習の時間をどのように進めていけばよいか、その特性を踏まえた活動の在り方について述べる。

- 1 総合的な学習の時間の推進上の特性
総合的な学習の時間は、「目標設定」、
「指導計画作成」、「学習活動」、「評

価」の順番で構想し、展開していくことが一般的である。

学校では、学校教育目標や様々な実態等を踏まえ、特色ある教育活動を展開するために総合的な学習の時間の目標を設定する。評価は目標設定の裏返しであるので、「目標設定」と「評価」の進め方は、学校規模の大小等にかかわらず、ほぼ同じであると考えられる。

へき地・小規模校においては、「指導計画作成」、「学習活動」の段階で特性を踏まえることが大切であり、留意点として次のようなことが考えられる。

(1) 特性を生かした指導計画作成

ア へき地・小規模校は、特に自然環境が豊かで、伝統的な行事、農作物などの特産品や伝統工芸品等、その地域ならではの素材が多い。そこで、教師はフィールドワーク等を通して、その素材のもつよさの生かし方を十分に検討するとともに、積極的に地域の人材活用について工夫する。

イ 児童数が少ないので、これまでの子ども一人一人の学習状況等を十分に把握することができる。そこで、子ども

一人一人の思いや願いなどを踏まえ、より実態に応じた単元を構想する。また、学級数が少ないので、全校一斉の学習活動を取り入れることも検討する。

ウ 学習対象（人材，施設等）が限られることで、学習活動が制限されやすく、学習活動がマンネリ化しがちである。その場合、素材をどのように学習活動に取り入れるか様々な角度で検討し、発展的に活動が継続するような単元構成を工夫する。

エ 学年別の活動が難しく、2学年が同じ学習活動を行うので、どちらかの学年の実態にそぐわないことがある。その場合、子どもの実態を踏まえた学年ごとの単元の目標を設定し、活動内容を工夫する。同単元異内容の学習活動を設定すること等も考える。

(2) 特性を生かした学習活動の工夫

ア 子ども一人一人の思いや願いを踏まえた学習課題を設定しやすい反面、教師の数が不足し、子どもの課題に十分こたえられないことがある。その場合、事前に子どもの実態を把握し、課題別のグループ編成の予測を立てておくことも考える。

イ 間接指導や間接指導時のガイド学習の経験から、自力解決の態度や能力が育っていたり、異学年での学び合いの経験も豊富であったりする場合、計画作成や調べ活動の時に、それらのよさを生かす助け合い学習の指導・支援を工夫する。

ウ 地域に住む幼児から高齢者までが子

どもたちのことを知っているので、校外での安全面が図られるとともに、活動の成果を広げやすい。そこで、学習活動の様子を地域の方々に知ってもらえるように広報の仕方を工夫したり、授業後も継続して地域の方々とかわることができるような働き掛けをしたりすることも考える。

2 指導計画作成のポイント

単元作成に当たっては、次の3点に留意したい。

(1) 複数学年で同じ素材を取り上げる

地域には、伝統的な行事や伝統工芸、特産品といったその土地ならではの素材がある。このような素材は、子どもたちが取り組みやすく、ゲストティーチャー等の活用も容易である。また、郷土の特色ある素材を4年間を通して学習することで、子どもたちは郷土について深く知ることができるとともに、郷土愛をはぐくむこともできる。したがって、郷土の素材をできる限り複数学年にわたって取り上げることが望ましいと考える。

しかし、同じ活動内容では子どもたちの興味・関心が持続しにくく、総合的な学習の時間のねらいを十分に達成することは難しい。そこで、子どもの発達段階の特性と内容の系統性、発展性を踏まえた目標を設定し、活動内容を工夫することが大切になる。また、このような目標設定と活動内容の工夫により、同単元異内容の単元構成が可能になる。

例えば、お茶を素材にした場合、次の

ような単元構成も考えられる。

学年	テーマ	考えられる活動
3年	ふれあう	・生産活動の見学 ・茶摘み体験 ・出荷作業等の体験
		(目標)自分で課題を決め、自分なりの方法で解決することができる。
4年	しらべる	特産品となった理由 やそこで働く人々の思いや願い等の調査
		(目標)課題解決の方法を工夫し、分かりやすくまとめることができる。
5年	深く知る	・他産地との比較 ・消費調査等 ・実際の栽培活動
		(目標)課題に応じた多様な解決方法を工夫し、解決することができる。
6年	発信する	・これまでのまとめ ・お茶のよさを多様な方法で知らせる。
		(目標)よりよい課題を選択し、解決したことを効果的に表現できる。

(2) A B年度で単元を考える

学年の人数が少ない学級の場合、総合的な学習の時間のよさである友達との学び合いを十分に展開できないので、2学年一緒に活動内容で構成することが望ましい。この際、活動内容と学年の発達段階の特性を十分に考慮することが重要である。

特に3年生は、総合的な学習の時間の学び方を身に付けていくことが大切になるので、3・4年生の単元については、身近で多様な課題が考えられる素材を学習対象に選ぶようにする。身近な素材は、何度でも実際にかかわることができるよさがあり、多様な課題が考えられる素材は、前年度の

学習を生かした発展的な学習を展開できるというよさがある。

5・6年についても3・4年と同様に考えることができるが、5年生はこれまでの学習経験があるので、異学年が共に学ぶよさを生かしながら、深く生き方を考える単元を複数年にわたって学習することも考えられる。(実践例参照)

(3) 全校での活動を考える

へき地・小規模校には、これまでに地域と密接に結び付いた行事等が伝統的に行われているところもある。これらを総合的な学習の時間のねらいを踏まえて見直し、全校的な学習活動として取り入れることも必要である。この際、1・2年については学校行事や生活科の時間を充てて取り扱うなど、学校の実態に応じて工夫したい。

単元「黒砂糖で郷土のお菓子を作ろう」

	1・2年	3・4年	5・6年
1学期			きびの栽培活動、手入れ等(1,2学期)
2学期	招待状づくり	来年度使用するきびの植え付け	きびの収穫
3学期		黒砂糖づくり	地域の方を招いて黒砂糖を使ったお菓子で収穫祭をする。

3 学習活動の工夫

異学年の学び合いやリーダーを中心とした子ども同士の問題解決的な活動を工夫するとともに、これまで培ってきた地域の人人との人間関係を大切に、活動を地域に拓くことが重要である。

これらを踏まえ、5・6年生の単元「お役に立ちます」の実践を基に、学習活動の工夫について具体的に述べる。

実践例

(1) 目標（総括目標）

自他のよさを認め、みがき高め合いながら他と共によりよく生きようとする気持ちをもつ。

(2) 指導計画全25時間、（内の数字は時間数）はへき地・小規模校のよさを生かした支援内容

過程	主な学習活動	指導・援助
つふ かれ むる	1 ウェビングゲームで自分や友達のよさを見つめる。 ・ <u>同学年・異学年での話し合い</u>	自分のよさについて異学年，同学年それぞれの友達の意見を聞くことで，様々なよさの気付きができるようにする。
た て る	2 自分のよさを生かすことができる活動を考える。 ・ 課題探し ・ 活動計画案の作成	5年生には，6年生の助言を取り入れて計画を作成させる。6年生には，前年度の課題を想起させ，更によりよい計画を作成させる。
調	3 自分のよさを生かせる活動に挑戦する。 ・ よさを生かしたボランティア活動 ・ <u>地域の清掃活動</u> <u>高齢者との交流</u> ・ <u>保育所等での手伝い</u> など	ボランティア活動の基本的な考え方を確認し，活動の方向を見失わないようにする。
べ る	4 中間発表会をする。 ・ 意見交換 ・ 活動計画の見直し 5 自分の活動を深める。 ・ 中間発表会を踏まえた活動の修正 ・ <u>追究活動</u>	今までにお世話になった地域の方や訪問した施設を振り返り，もっとよくしたいことなどを十分に想起させ，思い付きの活動にならないようにさせるとともに，相手の立場に立った活動の工夫を考えさせ，更に活動が深化するような助言をする。
いま か と す め る	6 それぞれの活動を本にまとめる。 ・ 各自でのレポート作成 ・ 製本作業 ・ <u>地域の方々への配本</u> 7 これから自分でやってみたいボランティア活動について話し合う。 ・ 学校内でできる活動 ・ 学校外でできる活動	活動の記録を本にすることで，活動を振り返り，これからの生き方に生かすことができるようにする。 <u>本を地域の方にも配り，活動のお礼とともに，成果を一緒に味わうことができるようにする。</u> 学校外の活動は，日常にかかわることのできる人々や施設を対象にするように助言する。

下線 は，異学年の学び合いやリーダーを中心とした活動，下線 は，地域の人材活用

(3) 評価

- ・ 自分のよさを生かして意欲的に活動していたか。
- ・ 友達のよさを認めるとともに，自分自身の成長を見つめることができたか。

4 まとめ

へき地・小規模校には様々な特性があり，規模校ならではのよさを生かした総合的な学習の時間が展開できると期待するものである。

その中には総合的な学習の時間を進める上で，学習対象が限られるなどの課題が考えられる。しかし，それらの課題をマイナスととらえず，それを生かす工夫を教師一人一人が考え，実践することで，へき地・小

【参考文献】

文部省 『小学校学習指導要領解説総則編』
平成11年5月

（教育経営研修室）